地域の資源を活かし、育み、「水」「土」「里」の未来を拓く

秋田の土地改良

あきたのとちかいりょう

イメージキャラクター
みどりちゃん

臨時号

2023
11.24[Fri]

令和５年度水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno

「令和５年度 水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno」

全国初となる令和５年度水土里ネット男女共同参画推進大会が９月27日㈬～28日㈭秋田県鹿角市のホテル鹿角にて開催されました。今回の【臨時号】はダイジェスト版として発刊しましたので、是非ご覧下さい。

【お問合わせ】
水土里ネット秋田 総務企画部 政策・広報班
TEL.018-888-2742

令和５年度水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno

大会テーマ　今、はじめる。まずはあなたの「まち」の土地改良区から

初の地方開催となる「水土里ネット男女共同参画推進大会」が9月27日（水）、28日（木）の２日間、秋田県鹿角市において開催された。

全国の「水土里ネット女性の会」の会員及び関係者約200人が参加し、男女共同参画の先進的な取組を研修し、意見を述べ合い、互いのネットワークを広げるとともに、土地改良団体の将来の体制強化についてそれぞれに考える機会とした。

はじめに、主催者を代表して、全国水土里ネット女性の会の根本由紀子会長（あきた水土里ネット女性の会会長、かづの土地改良区事務局長）が、男女共同参画は、男女がそれぞれの能力を発揮して輝き、活躍できる環境を実現するものであり、水土里ネットでも積極的に取り組み、運営に参画する人材の多様化を図って行かなければいけないと挨拶した。

また、来賓として都道府県水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫参議院議員、進藤金日子参議院議員及び全国土地改良事業団体連合会　室本隆司専務理事より祝辞をいただいた。

全国水土里ネット女性の会
根本由紀子会長

基調講演

講師　農林水産省　農村振興局　農村政策部　部長　佐藤一絵 氏

演題　「土地改良区の未来を拓（ひら）く多様な人材の活躍に向けて」

男性中心の農業の現場で女性が活躍するには、社会全体の構造を変えるとともに意識改革が必要である。また、女性が一歩踏み出すキーワードとして、常に学び続け「一生成長」、己の限界を知った上で「努力はするけど無理はしない」、素早くぶれない判断をするための「聞く力」を挙げた。「完璧でなくていい。しなやかで、緩やかなリーダーを目指してほしい。」と呼びかけた。

パネルデスカッション

テーマ「男女共同参画社会を実現するためには」

性別にかかわらず皆が自分らしく活躍できる社会を作るにはどのような考え方、行動をするべきか。土地改良区が、社会に認知され、期待される組織になるきっかけとは何か。等々について活発な意見交換が行われた。

〔コーディネーター〕
長　濱　健一郎 氏（秋田県立大学 生物資源科学部 副学部長・教授）
〔アドバイザー〕
佐　藤　一　絵 氏（農林水産省農村振興局　農村政策部長）
〔パネリスト〕
奥　村　千扶子 氏（大島堰土地改良区理事長（宮崎県））
今　野　信　子 氏（大仙市大曲土地改良区理事（秋田県））
千　田　公　喜 氏（胆沢平野土地改良区理事長（岩手県））
中　尾　祥　子 氏（島根県土地改良事業団体連合会理事、なかお商会）
（五十音順）

（主な討論内容）

〔パネリスト〕　奥村　千扶子 氏

女性の方々には是非、土地改良区の認知度を高めるための広報活動をしていただきたい。皆さんと共に、特に「女性の会」の力で、全国の土地改良区が農業を守っていることを広く伝えていきたい。土地改良区に女性が入って様々な意見を言うことで、男女問わず役職員の良好な関係が築け、よりよい土地改良区になるのではないかと考える。

今、全国で女性理事長は１人だが、今後はどんどん女性の理事長が誕生することを期待している。

〔パネリスト〕　今野　信子 氏

就任後1箇月半ほどしてから、自分が秋田県初の女性理事ということを知り驚いた。現在は、庶務担当理事として自らの経験や知識を活かしつつ業務に携わっている。ジェンダー平等社会になっていないということもあるが、一方で女性自身がもっと積極的になる必要もあると感じる。男女共同参画の伸び悩みの原因はそこにあるようにも思う。

土地改良区の組合員のほとんどが男性であり、女性は表に出づらいということもあるが、女性だからできないということはない。（自分の存在が）女性の理事や総代の増加につながることを期待している。

〔パネリスト〕　千田　公喜 氏

以前は、総代の皆さんから、「女性理事はどうして必要なのか。」との意見も聞かれたが、男性より細かいところに気付いてくださったり、ありがたいと感じている。今後も議案等に対しても活発な意見、提案をしていただきたい。

また、女性の理事が３人誕生したことで土地改良区の雰囲気が明るくなった。今回の女性理事登用をきっかけに、総代になろうとする女性の方が出てくるのではないかと期待している。

〔パネリスト〕　中尾　祥子 氏

女性がゼロからイチになることで大きな効果を生み出す。男性だけで議論していて問題ないと思っていても、そこに女性が参画すると、女性のしなやかさ、さわやかさ、楽しく笑って盛り上げる力が加わって雰囲気が変わり、結果も変わる。門戸を開くことがまずはスタート。男性、女性関係なくそれぞれの得意分野を発揮して、農業や農村での安心で楽しい暮らしなどについて、話し合いの場を作ることが必要で、そこに土地改良区も参加していくことが大切。

そうした中で女性理事の候補者を見つけていく機会も作れるはず。

〔コーディネーター〕長濱 健一郎 氏

女性が活躍できる環境にある社会、組織は安心でき、発展できる。「女性に何ができるか」ではなく、まずは第一歩を踏み出し、社会に認知され、期待される組織となっていただきたい。

今日、ここ秋田県鹿角市で女性の会の全国大会が初めて開催されたことを契機に、全国で人々が交流を深め、ネットワークをつくり、様々な形でつながり、農村社会が活性化してくれるよう期待する。

講演・現地研修

テーマ「女性達がより豊かに、そして輝ける場所を求めて」

２日目は、ホテル鹿角にて鹿角市の由右衛門果樹園の田中順子氏（写真左）、レディースファーム代表の米田敦子氏（写真右）を迎え、各々の取組についてお話しいただいた。

その後、小坂七滝ワイナリーや世界文化遺産の大湯環状列石を視察し、大会は終了した。

大会決議

現在、農業農村では、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大、農村集落機能の低下などに加えて、電力料金や肥料等の急激な値上がりなど、新たな課題も発生しており、取り巻く情勢は一層厳しさを増している。

こうした中、土地改良区には農業生産基盤の整備、農業水利施設の保全管理、災害時の対応、農村が持つ多面的機能の維持など、多様な課題への適切な対応が求められている。

そのためには、男女共同参画を推進し、多様な人材の参画による様々な視点や考えを運営に活かして、持続可能で強固な組織運営体制を確立していく必要がある。

水土里ネットは、誰もが活躍する農業・農村を目指して、新時代にふさわしい土地改良区を創造するため、次の事項の実現を図ることを本大会の名において決議する。

あきた水土里ネット女性の会
副会長　坂本　由美子
（秋田県仙北平野土地改良区）

記

一　男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を実現すること。

一　女性の農業経営及びこれに関連する活動に参画する機会を確保するための環境整備を推進すること。

一　第５次男女共同参画基本計画及び土地改良長期計画において掲げられた数値目標を達成するため、土地改良団体における女性理事登用に向けた取組を推進すること。

令和5年9月27日　　水土里ネット男女共同参画推進大会

水土里ネット

令和５年度

水土里ネット
男女共同参画推進大会
in Kazuno

主催／全国水土里ネット女性の会　あきた水土里ネット女性の会

【臨時号】